

第2回新発田駅前複合施設サポート組織研修会 概要

- 1 開催日時 平成27年8月29日（土）11:00～14:00
- 2 開催場所 長野県塩尻市市民交流センター「えんぱーく」
- 3 参加者数 20名
- 4 日 程

（1）開会

- （2）えんぱーくらぶについて 小林「えんぱーくらぶ」副代表
- （3）コーディネーターの活動について 石浦協働コーディネーター
- （4）質疑応答 小林「えんぱーくらぶ」副代表
石浦協働コーディネーター
上條市民交流センター交流支援課係長

- （5）えんぱーくらぶ主催イベント「えんぱーく物語2015」講演会聴講
中村「えんぱーくらぶ」代表 清水元市職員

（6）閉会

研修会内容

- （1）塩尻市えんぱーくサポート組織「えんぱーくらぶ」について

●サポート組織のあり方

えんぱーくの基本コンセプトは、「知恵の交流を通じた人づくりの場」である。「えんぱーくらぶ」は、えんぱーくの基本コンセプトを実現するために、情報を扱う基本能力を持った人、獲得した知識を活かす人、豊かな心を持った人を育てるために活動している。

●「えんぱーくらぶ」の役割

「えんぱーくらぶ」とは、えんぱーくの運営や企画に自らの意思で参加し活動する組織や個人の集まりである。設立目的は、公設市民営（施設の管理運営を市と市民が協力して行うこと）の必要性を感じたためである。えんぱーくの運営を支援し、センターの可能性を最大限引き出すように活動している。

活動としては、多くの市民や行政と協力し、利用者のサポートをすることが挙げられる。困った人が来館したとき、やりたいことのある人が来館したとき、利用者団体がイベントをしたいと申し出た際にそれらを「えんぱーくらぶ」がサポートする。また、会員相互の交流を深め、サポーター通信等で情報を共有している。情報を共有することで「えんぱーくらぶ」に各々がやりたいことを伝え、形にするため活動している。

●えんぱーくの今後の運営について

「えんぱーくらぶ」は、えんぱーくを市民で運営していくことを目標としている。ただ、図書館という公の施設があることもあって、「えんぱーくらぶ」だけで運営するのは大変

難しく、試行錯誤している。

●「えんぱーくらぶ」の活動

市民は、どんなイベントをやってもいい。ただし、重点分野は5つある。

【重点分野】

① 図書館 ②子育て支援・青少年交流 ③シニア ④ビジネス ⑤市民活動支援

●「えんぱーくらぶ」の会員状況

参加者は、個人が58名、団体は15団体が登録している。

多岐にわたる分野の団体が登録している。例としては、読み聞かせ、子育て等に関する団体等がある。

会員の種別は、普通会員（会費 1,000 円）

登録会員（会費無料）・・・イベントの時のみお声がけをする。

賛助会員（会費 3,000 円）

保険には全員が加入する。

●「えんぱーくらぶ」の体制

- ・ 総会
 - ・ 代表、副代表
 - ・ 監査
- } これらが運営事務局
- ・ 広報（ホームページの管理運営等）
 - ・ 運営委員会（・活動を話し合う ・提案書を作成する ・月1回委員会で話し合う
・結果報告 ・経費報告・・・これで1つのイベントが終了する）

●イベントの分類

- ・ サポーター事業 子育てや図書館
- ・ 自主事業 「えんぱーくらぶ」として行うイベント
例）大人のクリスマス等のイベントを主催し、市民相互の交流を深める。
- ・ 個別事業 団体が企画提案し、進めるイベント
例）料理教室等

具体例

① 運営委員会

② 自主事業としては、講演会、懇親会、サポーター通信の発行、建物を有効に活用するために七夕やハロウィンなどに図書館の正面壁の飾りつけ、花育て（えんぱーくの周りに花を飾る。団体や申込者が1つ鉢を育てて飾るオーナー制度等）等会としてサポーター通信を月1発行している。情報発信も検討課題。

③ 個別事業については、「えんぱーくらぶ」が支援をしている。具体的には、読み聞

かせ、DVD 鑑賞会開催、シニア活動支援（エンディングノート書き方講習会）、ビジネス支援。多様な市民活動（食育、料理を楽しむ）等

- ④ サポーター事業は、ボランティアのためお金はかからない。具体的には、子育ての支援、図書館の本の整理等

●ポイント制度

えんぱーくでは、熱心な市民活動をしている方や「えんぱーくらぶ」に参加している方には、メリットがあった方がよいと考え、ポイント制を導入している。1回の活動で1ポイントが付与される。1ポイントあたり100円の会場使用料に充てられる。

●えんぱーくの歩み

2010年7月えんぱーくオープン

2009年「えんぱーくらぶ」が発足し、開館から多くの団体のイベントや会のイベントを開催してきた。

(2) 協働コーディネーターのサポート組織「えんぱーくらぶ」への関わり

- ① イベント：企画の段階から一緒に相談をする。運営委員会の前に、内容によってはアイデアを話し合うこともある。
- ② サポート組織主催イベント：イベントの内容等は全てサポーターが決めて活動している。協働コーディネーターは、物品、会場の手配等も行っている。
- ③ 他イベント：行政の市民活動支援係として、えんぱーくでのイベントも開催している。子供向けのイベントや、えんぱーくについて考える会議への出席も業務である。

コーディネーターが「えんぱーくらぶ」のイベントも、行政の行うイベントも両方の会議に参加することで、両者とコミュニケーションを取ることができる。そのため、「一緒にやろう」と呼びかけがしやすい。図書館や子育て支援係のように複合的に所管課がえんぱーくに入っているのは、それが狙いである。えんぱーくでは、行政の課を超えたイベントの連携会議が開催されているため、そちらにも、コーディネーターとして参加し、「えんぱーくらぶ」と館内の行政をつなぐ役割を担っている。

●えんぱーくで活動するには、「えんぱーくらぶ」に加入しなければならないか。

原則加入している。例外としては、子育てイベントの手伝いで募集する学生は「えんぱーくらぶ」への加入はしていない。そのような子育てイベントに学生が参加することで世代間の交流が生まれるためである。また、花を育てて、えんぱーくを飾る「花育てオーナー」は、「えんぱーくらぶ」がオーナーを募集し、花の世話をしてもらっており、「えんぱーくらぶ」には加入していない。

●「えんぱーくらぶ」の活動費について

活動費として、市から負担金80万円を収入している。「えんぱーくらぶ」が自覚と責任を

持った予算管理、事業実施を行い、えんぱーく運営の担い手として自立していくために、平成25年度から「えんぱーくらぶ協働推進事業負担金」が塩尻市から支出されている。もともとは、市役所の中の予算を使っていたが、それだと、折り紙1つを購入するにも時間がかかり、サポーターに不便だったため、平成25年度・平成26年度は、負担金という形で行ってきた。来年度以降は、自主的に運営をしていくことにしており、やり方を今後話し合う予定である。

例としては、個別事業のイベント開催に10万円程度。

サポーターの館内飾りつけの事業に10万円程度。

サポーター通信の郵便料に6万円。

ホームページ運営に市内NPOへの依頼＋パソコン教室やコーディネート料。

全体で100万円ほどの支出。

●団体やサークルに助成はあるか。

それぞれが「えんぱーくらぶ」の会員として活動しているため、助成はない。「えんぱーくらぶ」の活動費はある。

●組織内に団体と個人での参加があるが、活動する上で違いはあるか。

個人会員は、「えんぱーくらぶ」としてボランティア保険に加入し、保険料は「えんぱーくらぶ」が負担する。団体会員は、社会福祉協議会等を通じて加入しているため「えんぱーくらぶ」としては加入しない。

●組織内に団体と個人での参加が混在することで、問題点はあるか。

「えんぱーくらぶ」は、設立のはじめから、以前より図書館や子どもセンターで活動していた方も加入してくださった。それにより、新しい会員とのつながりが生まれた利点があった。

(3) 質疑概要

質問1 市職員や図書館の代表のような行政の各部門の代表は、「えんぱーくらぶ」に加入できるのか。

回答1 行政職員の立場で「えんぱーくらぶ」に加入することはできない。イベントに市職員をゲストとして呼ぶことは可能である。

質問2 ポイント制度は、会場を借りるときに使用できるとあるが、その他にポイントの使い道はあるか。

回答2 お金としては、使用できず、会場使用料にのみ使うことができる。ポイントは最後の活動の日から2年間有効である。

- 質問3 サポーターになっていないとポイント制度を受けることはできないのか。
回答3 サポーターになり、活動に従事した場合のみポイントが付与される。
- 質問4 「えんぱーくらぶ」には、いつから協働コーディネーターがいるのか
回答4 2009年の「えんぱーくらぶ」設立当初からいる。
- 質問5 協働コーディネーターの身分はどのようなものなのか。
回答5 市の嘱託職員である。月20日勤務している。
- 質問6 大学生がボランティアとして参加していると聞いたが、どこの大学の生徒が何人程参加しているのか。
回答6 隣の松本市の松本大学や松本短期大学の学生が多い。去年は、年間に10人から15人程度が子育てイベントに参加した。
- 質問7 3つの事業として、サポーター事業、自主事業、個別事業があるが、今現在、図書館や子育てについて開催している事業についても個別事業として必ず運営委員会の議題にかけてから開催しているのか。
回答7 「えんぱーくらぶ」に属する団体が個別事業で行うとしたら原則運営委員会に提案書を提出している。お金が必要な事業は、「えんぱーくらぶ」がお金の管理をするため、運営委員会を通してしている。その結果「えんぱーくらぶ」で援助をすることができる。
- 質問8 「えんぱーくらぶ」では、3つの事業としてサポーター事業、自主事業、個別事業があるが、興味のある事業にのみ参加する方もいるのか。運営委員会に議題を提出するのは難しい作業である。
回答8 「えんぱーくらぶ」は、施設を盛り上げるために全員で仲間として活動したいと考えている。個人や団体だけで活動したいと考える方もいるとは思いますが、そのような方にも参加していただける魅力的な組織を作ることが課題であり、現在検討を重ねている。例としては、「えんぱーくらぶ」主催で、読み聞かせをするとしたら運営委員会を通してもらうことになる。図書館主催の読み聞かせに語り部として参加する場合は、サポーター事業となる。その場合、運営委員会で報告はされるが「えんぱーくらぶ」としてお金はかからないため提案はしていない。せつかく施設ができるのであれば、活動をする人が仲間となり、ひとつの組織でまとまって活動をしていきたいと考え、「えんぱーくらぶ」が発足した経緯がある。
- 質問9 将来的に、えんぱーくは“公設市民営”を目指しているとのことであるが、NPO法人が運営するのか。
回答9 “公設市民営”は、個人や団体、民間事業、NPO 法人が集まって運営するが、そ

の集まりが新しい NPO 法人を立ち上げるわけではない。

質問 1 0 「えんぱーくらぶ」に加入した方の活動状況は、事務局から示された活動を行うのか。それとも自由に自分たちで提案したものをやるのか。

回答 1 0 基本的には、「えんぱーくらぶ」が強制的に何かをやるよう示すことはない。ただ、サポーター事業としては、「七夕飾りをするからこの日作業できる方」という形で募集をすることはある。その他事業として提案があれば実現に向け「えんぱーくらぶ」が動き、活動が盛り上がることに繋がる。

質問 1 1 「えんぱーくらぶ」は塩尻市民の方しか参加できないのか。他市の住民も参加できるのか。

回答 1 1 他市の住民も参加できる。

質問 1 2 えんぱーくの読み聞かせは、「大人のための」とあったが、対象はこどもなのか。

回答 1 2 図書館としては、幼児向けの読み聞かせを開催しているので、「えんぱーくらぶ」主催として「大人向け」の読み聞かせを開催している。

質問 1 3 「えんぱーくらぶ」は法人格ではないとのことであるが、お金の管理は誰が責任を持って行っているのか。

回答 1 3 代表が管理をしている。

(4)「えんぱーくらぶ」主催イベント「えんぱーく物語 2 0 1 5」

●これまでの「えんぱーくらぶ」

「えんぱーく物語」も今年で 8 年目である。過去を振り返り、新しい物語を作りたい。

「えんぱーく物語 0」は、えんぱーくの市民との協働第 1 号イベントであった。えんぱーくは、設計から市民が参加してきた。えんぱーくで何ができるかを考えて、「えんぱーくらぶ」は設立した。

2 0 0 9 年 2 月「えんぱーくらぶ」を設立し、総会を開催した。

「えんぱーく物語 2 0 0 9」建設当時、えんぱーくの完成図に、こどもたちに「このような施設になればいい」と書き込んでもらい、イメージを膨らませた。これが、初めての行政と「えんぱーくらぶ」の協働であった。

えんぱーくでサポート活動をしようと集まった人たちが、「えんぱーくらぶ」である。施設の建設と並行して活動してきた。活動できる時間や内容は十人十色で多彩な仲間。願いは、多くの人がえんぱーくを気持ちよく使えるように、えんぱーくのコンセプトである「知恵の交流を通じた人づくり」に役立ちたいということである。

えんぱーくは、できる限り市民意見を聞いて建設できるよう市民参加の会議を重ねてきた。そして、2010年7月にえんぱーくが完成した。多種多様な団体、個人がつながってひとつの団体とするには、高度なコーディネートが必要であるため、専門のコーディネーターが中立の立場で人をつなぎ合わせてきた。

えんぱーくという施設は、とても規模の大きなものであることから、市民や議会に多くの説明が求められた。えんぱーくが開館してみると、空間が広い、若者が集まる、開館時間が他公共施設に比べると長いという利点が見えてきた。広い空間、時間を使って仲間が作れる施設であると考えようになった。子ども、高齢者、障がい者、民間、行政が合わせて入ることで、課題解決をできると考えた。そして、学校教育課程でできないことをえんぱーくで行っていきたい。行政ができないサービスをえんぱーくで行える可能性がある。

●「えんぱーくらぶ」が目指すもの

市民が主人公、市民がつくる組織が元気であること。市民が行政と協働することが重要である。仲間を作り、市民交流センターを元気にして、えんぱーくの可能性を最大限高めることを目指す。えんぱーくは小さな市民社会の実験の場だと思う。塩尻市が、まちも元気、住んでいる人も元気になっていくと考えている。

●これからの「えんぱーくらぶ」

2009年えんぱーくらぶを設立した。他施設のサポート組織の視察にいったが、年間200本のイベントを行っているサポート組織や、依頼をすれば24時間開館する施設があったりと、市民の活動が活発であり参考になった。

「えんぱーくらぶ」は設立から時間が経ち会員も代が変わった。これからは組織が自立していくために、現在は、市から活動費として受けている負担金を、どのようにして自分たち「えんぱーくらぶ」で集めるかを考えなければならない。

団体それぞれの活動はあるが、今後さらに「えんぱーくらぶ」としてつながりを深めたい。今現在、周辺の商店や住民とのつながりは弱い。向かいの商業施設は、えんぱーく閉館日の売り上げは下がっていると聞いている。しかし、近隣商店街へ経済効果があるかどうかはわからないため、地域の活性化が課題である。

「えんぱーくらぶ」は、ボランティア活動をやっている方が集まってできたイメージがある。ボランティア活動はもちろん素晴らしいことであるが、「えんぱーくらぶ」は自分たちで資金を用意し運営していくことで、どこかのひも付きではなく、より自主的な活動ができると考える。それを踏まえ、去年からお金の使い方を考えながらこのイベントを開催した。

えんぱーくのコンセプトは、「知恵の交流を通じた人づくりの場」である。つまり、「役立つ情報を提供する」「意欲のある方を支援する」「それにより施設が良くなっていく」。「えんぱーくらぶ」は、100年後にも、市民の視点から上記を実現するためにやっていきたい。行政との協働は難しいが、わくわくするような場を作るために、えんぱーくで活動をしていくのが「えんぱーくらぶ」のミッションであると考えます。「えんぱーくらぶ」の

事業はいくつか考えたが、来年からの活動を3つにまとめた。

① 外に向けての市民講座事業

今まではばらばらに事業を展開していたが、市民大学としてフレームを作って、その中にいろいろな授業があるという形にしたい。講座をやる場合は、その都度募集していたが、参加者全員が市民大学生となって登録してもらう。

② それに合わせて運用のために、備品の用意や会場の準備を行う。合わせて、広報活動やホームページの管理運営を進める。

③ 現在の個別の活動は、そのまま継続する。

外から見ると、市民大学一本になる。

今までの「えんぱ一くらぶ」は狭義である。これからは、広く、知識を得る全ての活動を市民大学とする。講座参加者は市民大学生として登録してもらい、ファンクラブとなり、一度でもイベントに参加した人には情報をお伝えしていく。また、商店街にも協力してもらい、市民大学学生証を持っていけばコーヒー1杯サービスだとか、なんらかの利点を設けて「えんぱ一くらぶ」を大きくしていきたい。その分、お店の情報を紹介したり、各々の活動を周知していく。「えんぱ一くらぶ」の枠を大きくし、「えんぱ一くらぶ」会員もイベントへの参加者も増やしていきたい。

●質疑

質問 えんぱ一くの建設に反対していた方もいると思うが、その方たちに、えんぱ一くがあることの利点をどのように説明しているか。

回答 えんぱ一くは100年もつと言われている。人と人のつながりが核になる。全ての市民にえんぱ一くの良さを伝えるために考え、日々活動している。塩尻のまちをよくするために、ワークショップを行い意見を聞いてきた。100年後、えんぱ一くがあったことでこのまちがある、と言ってもらえるように意識をしながら活動をしなければならない。学校教育ではできない活動をこつこつと続けることで、認識が変わってくると思う。